



いたびつ 板櫃 <校訓> 真理の探究 自主躍進

令和5年6月21日(水)発行
校長 栗原博巳
北九州市小倉北区白萩町8番1号
HP: www.kita9.ed.jp/itabitsu-j/

<学校教育目標>
自立・共生～自立心にあふれ、他を思いやる心をもった生徒の育成～
<目指す生徒像>
①「時を守り、場を清め、礼を正す」生徒(凡事徹底)
② 自ら考え、正しく判断し、進んで学習や諸活動に取り組む生徒(自立)
③ 思いやりの心を持ち、協力し合って集団生活の向上に努める生徒(共生)
④ 与えられた仕事に対し、役割を果たすことのできる生徒(責任)

板櫃中530名のみなさんへ②—進路決定に向けて—

何かに悩んだとき、迷ったとき1・2年生にも読んでほしいです。

校長先生の高校入試までのストーリーは、学校通信第34号に掲載したとおりです。今は、板櫃中のみなさんと楽しい毎日を過ごしていますが、高校入学後も波瀾万丈でした。

高校入学後は、「登山部」に入部していました。でも、(禁止されていた)アルバイトに明け暮れる毎日でした。特に、夏休み、冬休みはほぼ毎日アルバイトでした。おかげさまで、成績は下がる一方で、450名中300番くらいを歩き来していたのを覚えています。それでも、高校3年生の最後は、結構上位の成績をとることができました。



中学生のころから社会科の教師になりたかったので、大学は迷わず県内の教育大学志望でした。ただ、偏差値はギリギリで、担任の先生からは「合格には足りない」と言われていました。同じころ、数学の先生から職員室に呼ばれ、こう言われました。「中学校の数学を受験しないか」と。高校3年間、数学は得意だったので、どうしようかと迷いましたが、どうしても社会科の先生になりたかったので、「すみません」と断りました。これが運命の分かれ道でした!

共通一次テスト(今の共通テスト、以前のセンター試験)で、大失敗をし、見事に大学は不合格でした。上に書いているように、社会科のボーダーラインには足りなかったのですが、数学科のボーダーには足りていたのも、もし、数学科に変更していたら……。もしかしたら……。です。

でも、失敗は失敗です。34号にも書いていますが、家はかなり貧しかったので、私立大学に行くお金はありません。もちろん、私立大学を受験してもいなかったのですが、落ちた時のことを考えて、公務員試験を受験していました。北九州市役所、国家公務員(税関)、日本郵政の3つです。全部合格していたので、一番近い北九州市役所に就職しました。最初の勤務先は財政局税務部課税課です。でも、自分の目標ではなかったので、結構荒れた生活を毎日送っていました……。

夏休み、運命の分かれ道がまたやってきます。長崎大学工学部に進学した親友のところに遊びに行った時のことです。何気ない話の中で、友達が「教師にならんのか」と尋ねました。その当時は、市役所生活にどっぷりはまっていて、将来の夢ももてなかったため、「もうあきらめた」と即答しました。すると、友達は「ふざけるな!」と先生をぶん殴ったのです!みなさんは、真剣に友達から怒られたり、諭されたりしたことがありますか?先生は、この時は、何も言い返せずに、北九州に戻りました。

さて、運命の分かれ道の最後です。市役所の勤務時間中、職場に高校の担任の先生から電話

がかかってきました。「今から、すぐ高校に來い」という内容でした。高校に着くと、机の上に大学の入学願書が置いてありました。「全部記入しておいたから、あとは自分の名前を書きなさい。それと、写真も撮ってきなさい」と先生が言いました。「どこの大学ですか」と聞くと、「北九州(市立)大学の夜間の社会人選抜コースだ。英語の先生の免許がとれるから。子どもに教えるのは教科は関係ないだろう。教師というのは、子どもにお前の人生を教えること、お前の人生を伝えることが大事なんだよ。その手段が社会か英語かの違いだけだ」と先生からの言葉がありました。

それから、昼間は市役所、夜は大学という生活が4年間続きました。(※社会人選抜コースとは、仕事している社会人が対象です。新日鉄の課長さんなども同級生でしたよ)

先ほど書いたように、高校3年生の時、成績はまあまあよかったので、みんなが大学に行けることがうらやましくて、うらやましくて、うらやましくて、うらやましくて毎晩泣いていたことを覚えています。「どうして、自分は大学にいけないのか」と。その悔しさがあったので、すぐに受験を決め、翌年、北九州(市立)大学外国語学部第2部米英学科に入学しました。

大学では友達もたくさんでき、本当に楽しく勉強ができました。夜間大学といえば、「きつい」「暗い」「大変」というイメージがあるようですが、先生はとにかく楽しかったことしか覚えていません。そして、夜間大学だといいいこともあります。それは、昼間の授業と夜の授業の内容が同じだということです。そうです!つまり、試験問題も同じなのです!昼間の友達に問題を教えてもらい、対策を練れば、そう!もう、バッチリです!が、が、問題を全く違うものにする教授もいて、結局全部勉強しなければいけないことに気付かされました……。今となっては、笑い話であり、いい思い出です。

大学4年生の時に、北九州市の教員採用試験に合格し、小倉南区の田原中学校(当時は新設校)で教員生活が始まりました。その後、門司区の早鞆中学校、小倉南区の曾根中学校、小倉北区の板櫃中学校、北九州市教育委員会、若松区の洞北中学校、小倉北区の小倉中央小学校、八幡東区の尾倉中学校、そして、再び板櫃中学校と教員生活が続いています。

板櫃中学校のみなさんに伝えたいことは、ありきたりですが、「夢をあきらめないこと」です。こんな言葉があります。先生が好きなフレーズです。はっきり覚えていませんが、次のような文だったと思います。



「人は夢を簡単にあきらめますが、夢は決して人を裏切らないのだから……」

特に、3年生はこれから進路決定です。その先も長い人生が待っています。夢(目標)をもつことの大切さを伝えたいつもりですが、伝わってでしょうか。

しかし、ただ夢を追いかけるだけでは実現はしないと思います。夢の実現のためには、「強い意志」と「不断の努力」が不可欠です。努力もしないのに、夢ばかり語っても、成功の神様は振り向いてくれません。本当に「自分がなりたいもの」を見つけたときは、どうか、あきらめない強い意志で努力を続けてほしいと思います。それができる板櫃中学校の生徒だと信じています。

(校長先生が掲示している)3年生の受験スローガン「夢現(むげん)」にはこんな意味も込めています。校長先生の人生観や生き様がすぐにみなさんに影響を与えるとは思いません。しかし、今、迷っている人、悩んでいる人に少しでもパワーを与えることができたならうれしいです。

以上、校長先生の学生時代の話でした!まだ、聞きたいことがあれば校長室へどうぞ!【完】